【質疑応答】

〝花曇り〟について

（荒川氏の論文をめぐって質問が来ましたので直接荒川秀俊氏に答えていただいた）

質問：天気7巻4号落掌しました．同誌に掲載されております荒川秀俊さんの，「いわゆる〝花曇り〟の気圧配置」というのを読んで〝花曇り〟の定義がはっきりしなくなってきました．〝花曇り〟の本来の意味を知りたいと思います．

従来，私達の考えていた〝花曇り〟というのは，やはり，3—4月の候，移動性高気圧の中心より西の部分に見られる特有の曇天でありました．高気圧の後面に入るので，一般に，なま暖い南寄りの風が吹送すると共に高層雲の濃度が漸増して太陽又は月を次第に見えなくしていく過程のあの曇天です．

伊東彊自さんも，先頃の空の歳時記（朝日新聞）でそう説明されていたように記憶しています．「気象の事典」の解説もほぼ同様で，時々小雨も降る，とあります．

荒川さんは，〝花曇り〟は曇りとまちがえかねないが晴れているもの，とされています．

（大田原気象通報所　篠原久男）

答：〝はなぐもり〟について，諸種の国語辞典について，あたってみたところ

広辞苑（新村出編，岩波書店 昭和30年）には〔花曇〕桜の咲く頃，水蒸気が多く空が薄く曇っていることとあって，判然としない．

大言海（大槻文彦著，富山房 昭和9年）には〔花曇〕春時，百花ノ開ク頃，空ノどんよりト曇リガチナルコト．即チ，新暦ノ三四月，冬ノ北風ノ夏ノ南風ニ変ハル過渡期ノ空とある．

修訂大日本国話辞典（上田萬年，松井簡治共著，富山房　昭和14年）には〔花曇〕桜咲く頃，空の曇りがちにて晴れやかならぬこと．為尹千首春『何となく雨にはならぬ花ぐもり，咲くべき頃やきさらぎの空』謡曲国栖『花曇りなれ，春の夜の月は雲井に帰るべし』としてある．これには花曇りは曇ってはいるが，雨が降るほどでない空模様のような表現がしてある．

大百科事典（編輯兼発行者下中弥三郎，平凡社　昭和8年）には〔花曇り〕春季桜花の開くころ空の一面に薄く雲った状態をいう．この頃特に頻発する黄砂が飛来して上空に瀰漫するため薄雲がかかったやうになるためらしい．但しその他巻雲や層巻雲が隈なく立ちこめたのをいう場合もある（関口）としてある．この関口鯉吉先生の見解は，私が〝天気〟において表明した解釈にちかい．

肥沼博士が気象の事典に書かれたような見解をとっていた人々もあるだろう．書言字考節用集，一，乾坤門に『養花天，ハナグモリ』とし，花木譜に『越中牡丹開時，多軽陰微雨，謂之養花天』としてある．これによると，薄曇りで微雨の降るようなときの天候をも養花天（ハナグモリ）といつているわけである．

二様の『花曇り』の意味のうち，どちらが世間で広く通用しているか，私は詳らかにしないのですが，花曇りは雨を伴うような荒々しい春の天候を指す意味はないと私は思っていました．また単に曇りの空をさすとしたら，花曇りという特別な言葉はいらない筈です．

（荒川秀俊）

＝天気8月号の内容予定＝

口　　絵：山の気象……大井正一
解　　説：大気オゾン（Ⅱ）……関口理郎
論　　文：偏東風の波動について……田辺三郎
楚辞における気象観……田村専之助
極東における各国ゾンデ観測値の比較について……松橋史郎・新井英次
シンポジウム：山の気象(中)……吉川友章・大井正一

9月号からの論文が不足していますので，ふるってご投稿下さいますようお願い致します．